

平成30年度事務事業評価シート(29年度実績)

◎基本情報

事務事業名	小中学校電子黒板整備事業		担当部署	教育委員会 教育支援室	
総合計画体系			根拠法令 計画など	IT新改革戦略 教育の情報化ビジョン	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">▼</span> 26 年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なんと			終期
(小項目)		教育行政			
施策	1	教育行政の充実			
基本事業	6	教育支援体制の充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 内部管理 市内小中学校														
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	国をはじめ各自治体など、全国的に教育効果があると報告されている電子黒板、デジタル教科書の導入を進め、教育環境の整備を図る。また、電子黒板を活用することにより、「わかる授業」を展開し、授業の理解度の向上を目指す。														
事業計画	29年度に何を計画していたか	平成26年度から各校1台の電子黒板の整備を始めたが、各校1台では効果的な活用が難しいため、段階的に整備を行ってきた。平成27年度は、小学校6年生と中学校1年生の全普通教室に整備し、平成28年度は、小学校5年生および中学校2年生の全普通教室に整備を行い、平成29年度は、中学校3年生の全普通教室に電子黒板ならびにデジタル教科書の整備を行う。これらにより、教室に電子黒板が整備された当該の学年においては、電子黒板の移動や児童生徒自らが教室を移動する必要性、学級・教科等の関係による使用制限がなくなり、より効果的・効率的な活用が可能となる。														
成果目標	事業目標の達成度合	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子黒板、デジタル教科書整備台数</td> <td>36</td> <td>17</td> <td>36</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>台</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位	電子黒板、デジタル教科書整備台数	36	17	36	-	-	台
指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位										
電子黒板、デジタル教科書整備台数	36	17	36	-	-	台										

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	電子黒板の導入は、平成26年度には、小中学校とも各校1台であったが、平成27年度から段階的に追加整備を行い、平成29年度までに小学校では5年生と6年生、中学校では全学年の全普通教室で電子黒板およびデジタル教科書の活用が可能となった。整備が完了した教室では、電子黒板やデジタル教科書の使用が特別な準備や移動をすることなく、日常的に使用できる環境が整ってきた。また、平成26年時より、各校で、デジタル教科書の活用研修を実施し、情報の共有化を図った。																																						
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他																																							
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">指標名</th> <th>28年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>30年度目標</th> <th>31年度目標</th> <th>32年度目標</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標 実施した事業の活動量を示す指標</td> <td>1 授業での1台あたりの活用時間数(小学校)</td> <td>165.6</td> <td>182.2</td> <td>200.4</td> <td>220.4</td> <td>220.4</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>2 授業での1台あたりの活用時間数(中学校)</td> <td>133.2</td> <td>146.5</td> <td>161.2</td> <td>177.3</td> <td>187</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標</td> <td>電子黒板、デジタル教科書整備台数</td> <td>39</td> <td>17</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>台</td> </tr> <tr> <td>目標達成率(実績/目標)</td> <td></td> <td>100.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table>			指標名		28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位	活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 授業での1台あたりの活用時間数(小学校)	165.6	182.2	200.4	220.4	220.4	時間	2 授業での1台あたりの活用時間数(中学校)	133.2	146.5	161.2	177.3	187	時間	成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	電子黒板、デジタル教科書整備台数	39	17	-	-	-	台	目標達成率(実績/目標)		100.0	-	-	-	%
指標名		28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位																																	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 授業での1台あたりの活用時間数(小学校)	165.6	182.2	200.4	220.4	220.4	時間																																	
	2 授業での1台あたりの活用時間数(中学校)	133.2	146.5	161.2	177.3	187	時間																																	
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	電子黒板、デジタル教科書整備台数	39	17	-	-	-	台																																	
	目標達成率(実績/目標)		100.0	-	-	-	%																																	
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況	計画どおり																																					

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成29年度	当初予算額	0	0	0	0	13,200	13,200
		補正予算額	0	0	0	3,000	△ 3,000	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	3,000	10,200	13,200
		決算額	0	0	0	3,000	9,126	12,126
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)		総人件費		総事業費
		0.3	0.0		2,170		14,296	

事業費推移	年度	28年度決算	29年度	30年度	31年度	32年度
	事業費	26,470	12,126	28,000	未定	未定
	うち一般財源	26,470	9,126	28,000	未定	未定
	人件費	2,140	2,170	2,170	未定	未定
	総事業費	28,610	14,296	30,170	未定	未定

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		児童生徒の学習意欲は向上し、教員にとっても授業改善や授業力向上につながっており、児童生徒の学力向上につながった。
	効率性	B:概ね効率的だった		電子黒板やデジタル教科書を効率的に活用することにより、児童生徒の興味や関心が引き出され、授業の質が高まった。
②成果に対する評価	指標名	電子黒板、デジタル教科書整備台数		目標を達成することができたため、A評価とした。
	目標	17	台	
	実績	17	台	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		上記①、②を踏まえA評価とした。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	小学校の電子黒板用のコンピュータの一部に既設のものを使用しているが、コンピュータ導入以来9年目となり、老朽化が進んでいるため、不具合が生じている。そのため、対応可能な学校には、本来職員室で使用する目的で整備した校務用のコンピュータと入れ替えることで対応をしているが、対応できず、困っている学校もある。高性能な電子黒板やデジタル教科書を導入してもコンピュータの動作が追いつかず、授業展開に支障をきたすとともに、コンピュータを入れ替え、対応してもらった学校の一部では、校務処理が非効率的になる実態もある。これらの課題を解決するには、コンピュータの更新が早急な課題である。また、デジタル教科書には、ライセンス期限が設けられており、順次更新を行っていく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	小学校3・4年生用の電子黒板・デジタル教科書の整備を行う。また、ほとんどの学校で何度かの校内LANの拡充整備やインターネットの光回線化の作業に伴い、配線が複雑化したり、部分的に老朽化した機器が残されているため、一部でネットワーク障害を引き起こしている。よって、高速化を含めたLAN環境の見直しや、コンピュータの整備などを進めることで、電子黒板を使った授業が快適に進めることができるよう周辺整備を進める。			
	H31年度	老朽化が進んでいる校務用のコンピュータの入れ替え事業を優先的に進めるとともに、これまでの整備の成果を踏まえ、小学校1・2年生への電子黒板・デジタル教科書の整備と周辺整備を進める。			

※普通教室の中に特別支援教室は含んでいない。